

聖書:ダニエル書1章1～21節

説教:信仰者が苦難の中に置かれるとき

はじめに

当初の計画ではきょうは申命記を取りあげるつもりでした。しかし、皆さんと一緒に教会で礼拝することが難しくなり、これがいつまで続くのか大変な不安を覚えております。急遽予定を変更してダニエル書をしばらく取り上げていくことにしました。なぜダニエルなのか。その理由を説明するために、イスラエルの歴史を簡単に振り返ることから始めます。

イスラエルは、ダビデの手によって一つの国にまとめられ、彼の子であったソロモンの時代に最も繁栄した時代を迎えます。ところがソロモンが亡くなると間もなく、イスラエルは北イスラエルと南ユダに分裂してしまい、その後北イスラエルはアッシリアの手によって滅ぼされ、それからおよそ百年経って今度は南ユダの首都であるエルサレムがバビロンによって包囲されてしまいます。そのとき中学生ほどの少年であったダニエルは、異教の国であるバビロンに突然連れていかれ、信仰者として大変な苦勞を味わうこととなります。その苦勞の一つを挙げるなら、教会に集まることができず礼拝は一人でするしかなかった。そんな中でダニエルは信仰を守り通しました。

私たちが置かれている状況は、ダニエルの場合とはまったく異なりますが、それぞれの所でしか礼拝を守ることができない、これからいったいどうなるのか先が見えない。そういう点では同じ所に置かれています。苦しみの中にあつたダニエルに主がどのようなことをしてくださったのかをともに見ていきます。

## 1 南王国ユダを包囲したバビロン

### 1) エレミヤの警告

1節を読みます。「ユダの王エホヤキムの治世の第三年に、バビロンの王ネブカドネツアルがエルサレムに来て、これを包囲した。」

この事件が起きたのは、紀元前605年であると言われています。突然起きたわけではありません。ダニエルの少し先輩にあたる預言者にエレミヤという人がいます。そのエレミヤは、主に従わずにほかの神々に従って歩むならば、やがて滅ぼされることになる。そのように警告していた。ところが人々はエレミヤが語る主のことばを憎み、エレミヤを

迫害してしまう。その結果、2節にあるように「主は、ユダの王エホヤキムと、神の宮の器の一部を彼の手に渡された」、ということになったのです。

### 2) 捕らえ移される

バビロンの王ネブカドネツアルがしたのはそれだけではない。王族や貴族の中から容姿端麗、智恵知識に秀でた少年たちを連れて行き、専門学校に入れられてカルデア人の言語、文学、技術を教え込ませる。その中にダニエルがいました。おいしい食事が食べられて、学校で勉強ができる。それはそれで結構なことではないかと、思うかもしれません。しかしダニエルにとってはそうではなかった。名前が取り上げられ、先祖たちが信じてきた神のみことばを学ぶこともできない。それはユダヤ人としては死んだも同然の状態です。それでもダニエルは、主への信仰を守ることに心を砕きます。

## 2 ダニエル

### 1) 身を汚さぬように

彼は8節にあるような提案をします。「ダニエルは、王が食べるごちそうや王が飲むぶどう酒で身を汚すまいと心に定めた。そして、身を汚さないようにさせてくれ、と宦官の長に願うことにした。」

王様の食卓に出される食事や飲み物には、異教の神々にささげられたものが含まれていましたので、それを食べれば、主に対して身を汚すことになります。ダニエルは敵の国にいるのだからと言って妥協しません。おそらく小さな妥協がやがて大きな妥協となり、最後には信仰さえも失ってしまう、そのような危険を見抜いていたのかも知れません。

### 2) 神の助け

そこで12、13節にあるような提案をします。「どうか十日間、しもべたちを試してください。私たちに野菜を与えて食べさせ、水を与えて飲ませてください。そのようにして、私たちの顔色と、王が食べるごちそうを食べている少年たちの顔色を見比べて、あなたの見るところにしたがって、このしもべたちを扱ってください。」

この提案は受け入れられ、十日間のテスト期間が終わるとダニエルを含めて四人の少年の顔色と

からだつきは他の少年たちよりもかえって良くなった。これで食事で身を汚すことは避けられる。問題は解決です。

しかし、捕虜の立場にある者が食事のことでわがままを言うようなものですから、普通はひどい目に遭うはずです。私ならとても怖くてできそうもありません。どうしてダニエルはこういうことができたのか。ダニエルは非常に頭が良く、性格も良く、人に好かれるタイプの人だった。だから宦官の長も、心穏やかにダニエルの提案を受け入れた。確かにそのとおり。ではそのような賜物はだれが与えたのか。17節。「神はこの四人の少年に、知識と、あらゆる文学を理解する力と、知恵を授けられた。ダニエルは、すべての幻と夢を解くことができた。」やはり神なのです。それで9節にあるように、宦官の長から親切なことばをかけてもらえるようになり、無事に卒業試験にも合格して、王に仕えるようになったのでした。めでたしめでたし、です。

### 3 苦難の中で

#### 1) なぜ

捕虜の立場にありながら、望みうる最大の出世コースの第一歩を踏み出すことができた。これを見て、私たちは神の守りはすばらしい、という結論を出して終わりそうです。本当にそうでしょうか。ダニエルにとって王に仕えるということは、異教の神々とのようにつきあっていくのか、そのことが毎日問われていく茨のみ道の始まりでもあったのです。自分の信仰を守り通すためにライオンの檻に投げ込まれることも覚悟しなければならぬ。そういうこともやがて起きるのです。でもどうして彼はそのような目に遭わなければならなかったのでしょうか。

#### 2) 主に逆らった罪のために

最初に触れました。元をたどっていくならずべてイスラエル、ユダが犯した罪のためでした。エレミヤがなんども悔い改めて主に立ち返るようと語っても耳を貸そうともせず、ほかの神々を拝んだ結果、バビロンの手で滅ぼされてしまう。原因ははっきりしています。

しかしこのことで苦しまなければならなくなったのは、ダニエルのほうです。いま見てきたとおり、彼は食べ物の中で自分の身を汚してはならないと考えて、中学生という育ち盛りでいつもお腹が空いているようなときに、自分は野菜だけで結構ですと言うほどの信仰者だったのです。そんな

すばらしい人がなぜ苦しむことになるのか。私たちの目には、不公平にしか見えません。さぞかしダニエルは人々を恨んだのだらうと思ったらそうではない。彼は自分の置かれたところで最善を尽くすだけで、決して人を恨むようなことはしません。なぜでしょう。信仰がすばらしかったから、の一言で片付けるのは簡単です。

#### 3) 主が歩まれた道を

ダニエルは確かにつらいところに置かれはしました。でも、一方で自分は一人ではないということも知っていたのではないのでしょうか。宦官の長が自分に対して親切なことばをかけてくれるようになったのはなぜだろうか。ネブカドネツアル王の前で見事優秀な成績で卒業試験に合格できたのも、どうしてだろうか。決して、自分の力ではない。主が助けてくださっていることを知っていました。

それだけではありません。この苦しみの中で彼はもう一つ大切なことに気付いていったのではないのでしょうか。

ダニエルはまさか自分がこのような道を歩みとは想像もしていなかったでしょう。どこにつれていられるのか、どのような人生が待っているのか、不安だったでしょう。でもやがてあるとき自分の足もとを見て気がついた。そこにもう一人の足跡があった。誰のだろう。よく見ると主ご自身の足跡がすでに刻まれていた。自分が歩んでいる道は主が歩まれた道が見えました。そしてわかった。主の足跡があるなら、これでよい。この道をそのまま進むだけなのです。そうしたら、たとえ途中で苦しみがあったとしても、必ず十字架の救いにたどり着くことができる。ダニエルは苦しみの中で知っていきました。

#### 4) とともに歩む

私たちは、このようにして教会に集えない日々の中に置かれています。これまで皆さんと一緒に主を礼拝できたことが、実は大変な恵みであったのかを心の底から思わされています。それが今では、家の中から出ないでくださいと言われていて、みなピリピリしてきて、なかには感染者の家がわかると、その家に石が投げ込まれたという話もありました。ついこの間までは「絆」とか言って、一つになることがすばらしいと言っていたのに、皮肉なことに「感染するから近寄るな」と言って、人と人とのつながりが分断されてしまっています。

でもイエスはどうされたのでしょうか。あなたは罪人だから、私のところに来るなと言ったで

しょうか。あなたは罪人だからわたしの衣に触れてはならないと言ったのでしょうか。十二年の長血の患いで苦しんでいた女性が隠れてイエスの衣に触れたとき、咎めようともせず、かえって「あなたの信仰があなたを救ったのです」と声をかけて励ましてくださいました。

私たちはこのような主が歩んだ道を歩んでまいります。信仰があるとかないとか、そのようなことで区別するのではなく、感染しているから、していないから、もちろん医療機関では厳密にそのことは区別しなければいけません、心の中まで区別はしない。

なぜなら神のあわれみはすべての人々に等しく注がれているのですからです。当時の大帝国であったバビロン帝国の王であったネブカドネツアルの心さえも、主は変えていくことをこの後で見ていくことになります。

困難な中に置かれたとき、私たちは動揺してしまい、あわてて解決の道をさがそうと、スマホをいじってあれやこれやと情報を探し回ります。時にはそのようなものも役立つでしょう。しかし、肝心のところは意外に見落としてしまっている。足もとを見てください。自分の足もとに解決がある。何が見えるか。主の歩んだ足跡が見える。私たちが苦しいのですと思っているなら、主も同じ所を歩んでいる。ということは主は私たちとともにおられる。そこに私たちの唯一の解決と希望があることを確認したいと思います。